



すぐり ひで あき
村主 英明

しみん
市民クラブ



公共交通空白地域を解消し市民の足の充実を

問 地域において買い物や通院などに気軽に出かけられることは、市民誰もが望むことである。

バス停を利用できる範囲を地図上に記入していくと「公共交通空白地域」が明らかになる。

コミュニティバスの再編だけでなく、デマンド型交通の導入、地域団体・市民団体の参画なども視野に入れ、空白地域の解消、市民の足の充実に積極的、戦略的に取り組むべきではないか。

重要な課題として空白地域の解消を目指す

答 現行の津市地域公共交通網形成計画の下で5年が経過しようとしているが、交通空白地域については解消していないのが実情である。

その中で、次期計画の策定に向けては、交通空白地域の対策として、地域住民運営主体型コミュニティ交通（デマンド型）の導入促進について協議している。現在、市内3地区において、実施しており、取り組みをより一層推進する考えである。

また、現行のコミュニティバスについて、津地域の北部と河芸地域を一体とした運行や、高茶屋地区における運行などを協議しており、今後も交通空白地域の解消に尽力する。

●その他の質疑・質問●

○今年発生した全国各地の台風被害等からの教訓について

○発災時に開設する避難所における良好な生活環境の確保を

○避難所開設に当たって専門家の協力を得て安全確認を行う体制の確立を

○市のホームページの充実を

●市の持つ行政情報を積極的に、かつスピード感を持ってホームページで発信を など



▲旧津市地域における公共交通空白地域の分析（楢円）



かとう みえこ
加藤 美江子

こうめいどうぎいんだん
公明党議員団



障がい者の就職面接会の今後の方向性は

問 障がい者の就労支援における就職面接会は、これまでは、ハローワーク津が主催で行っていたが、今年度、津市との共催事業となり、11月に初めて開催となったことは、企業と障がい者をつなぐ大きな一歩である。

今回の就職面接会の状況と見えてきた課題を踏まえ、今後の実施に向けた方向性は。

関係機関と連携しながら効果的に進めていく

答 市内企業17社の人事担当者による就職面接会が行われ、53名もの障がい者の方々に参加いただいた。また、障がい者本人の今後の就職活動にも資するため、ガイダンスとして就職相談コーナーを併設し、津市や三重県など、6つの関係機関の参加のもと、各窓口において多数の就職相談が行われるなど、共同開催として双方の強みを生かした効果があった。

今回の取り組みによる効果を検証し、会場での各企業の配置や動線、仕切りの設置などの課題も含め、障がい者の方に配慮した就労支援に向け、関係機関と連携しながら一体的かつ効果的に進めていく。

●その他の質疑・質問●

○第2期総合戦略（案）から

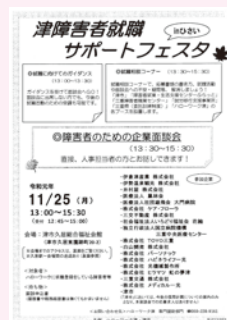
●出生数の目標を2,080人から2,200人とした根拠は

●（仮称）こども子育て・出会い応援包括支援窓口の設置は

●三重短期大学の学生の市内企業への就職の促進は

○高齢者肺炎球菌ワクチンについての今年度65歳の対象者へのコール・リコールの考えは

○女性相談について など



▲障がい者の方の企業面接会を津市が積極的に開催すべき